

「(仮称)新・港区史」構成

基本構成				執筆担当	監修者 全体監修者 井奥成彦	
編	章	節	執筆内容例示(項)			
自然史 ・原始編 地形・地質・生物・ 気象等の自然の歴史 旧石器時代・ 縄文時代・弥生時代	港区の自然					
	第1章	港区の地形と地質	第1節	港区の地形の概要-東京湾に面した武蔵野台地東端の地形	台地の地形・台地を開析する谷・沖積低地(谷底、東京湾岸)	久保純子 鈴木毅彦
			第2節	港区の地下と地質	北米プレートとフィリピン海プレートの上に位置する港区・関東平野の地下に広がる上総・下総層群・台地をつくる堆積物と関東ローム層・低地に分布する沖積層	
			第3節	地形の変遷	日本列島と関東平野の成立・プレート運動と上総トラフの陸化・氷河性海面変動と地形・地質・縄文海進と沖積低地・歴史時代の地形変化・埋め立てによる海岸線の変化(人工地形)・23区で一番坂の多い区	
	第2章	港区の気候と気象	第1節	世界や日本における港区の気候と気象	はじめに・港区の気候概要-世界の気候の多様性から・気候・気象の季節性	高橋日出男
			第2節	港区における気候・気象の特徴	降水・気温・相対湿度・風・日照時間と日射量・大気汚染	
			第3節	気候の変化・変動	地質時代から歴史時代の気候・観測時代の気候変化	
			第4節	港区における気象資料と気象災害情報	気象観測の歴史と観測資料の概要・気象災害に関する情報・地球温暖化・エルニーニョ/ラニーニャ現象・北極振動・大気大循環・海陸風(と山谷風)・大気現象の時間・空間スケール	
	第3章	港区の生物	第1節	港区の生物	港区の生物の歴史的移り変わり・港区の生物・港区のみどりの分布	河野博
			第2節	港区に生息する生物	港区の植物・港区の陸上動物・港区の水辺の生き物たち・在来種と外来種・四季を彩る生き物たち	
	第4章	自然の歴史と人びと	旧石器時代から現代に至る、自然と人びととの関わり合いの歴史や、現代人・現代社会が抱えている課題について概観する。			久保純子 鈴木毅彦 高橋日出男 河野博
	港区の原始					
	第1章	港区の考古学研究	第1節	近代考古学史の人びとと港区	坪井正五郎と鳥居龍蔵・華族の考古学-元榎倉藩主・阿部正功の事績	高山優 岡崎完樹 渡辺文彦
			第2節	大学と東京都教育庁の調査	大正から昭和戦前期の考古学調査・人類学者の遺跡調査・慶應義塾大学考古学研究室の人びと	
			第3節	行政調査の時代	伊皿子貝塚遺跡の発掘調査-区内最初の本格的な行政調査・近世遺跡調査の始まりと展開・行政調査の展望と課題-おわりに代えて・行政調査を牽引する人びと	
	第2章	港区の旧石器時代	第1節	旧石器時代の自然環境	気候と地形の変化・段丘面の形成・動植物相の変化	渡辺文彦
			第2節	旧石器時代のくらし	旧石器時代前半期のくらし・旧石器時代後半期のくらし・遊動的狩猟採集生活のすがた	
			第3節	港区の旧石器時代遺跡	旧石器時代前半期の遺跡・旧石器時代後半期の遺跡	
			第4節	旧石器時代の港区域	広域火山灰・C14炭素年代測定法	
	第3章	港区の縄文時代	第1節	縄文時代の自然環境	気候と環境の変化・縄文海進	高山優 久保純子 斉藤進 渡辺文彦
第2節			縄文時代のくらしと文化	早期の人びとの活動・集落の発達・貝塚がつくられた時代・縄文時代の人びとの行方		
第3節			縄文時代の港区域	旧石器時代と縄文時代の境界・挾状耳飾(縄文人の装身具)・貝と鱗の成長線・土器の変化		
第4章	港区の弥生時代	第1節	弥生時代の自然環境	気候と地形の変化	高山優	
		第2節	弥生時代のくらしと社会	弥生文化到来の頃・むらのくらしと社会・弥生時代の終焉と次代への胎動		
		第3節	港区の弥生時代遺跡	港区内で発見された当該時代の遺跡を総覧		
		第4節	弥生時代の港区域	プラント・オパール・方形周溝墓・土器の変化		

「(仮称)新・港区史」構成

基本構成					執筆担当	監修者 全体監修者 井奥成彦	
編	章	節	執筆内容例示(項)				
古代編 古墳時代・ 律令制下 (飛鳥・奈良・平安) 時代	第1章	港区の古墳時代	第1節	律令制以前の港区域	律令制以前の港区域の社会状況を文献的な見地で解説	小口雅史	
			第2節	古墳時代のむらとくらし	古墳時代の社会状況の概説	大西雅也 高山優	
			第3節	芝丸山古墳と円墳群	港区に存在する古墳群である丸山古墳から、当時の港区域の状況を解説		
			第4節	港区の古墳時代遺跡	港区で発掘される古墳時代の遺跡から、新しい歴史情報を紹介		
			第5節	古墳時代の港区域	さまざまな考古的新情報を交え、古墳時代の港区域を解説する。コラム:古墳の形態と構造、土師器と須恵器		
	第2章	律令制下の港区域	第1節	考古学から見た古代の港区域概要	港区の古代について、考古学の見地からわかる概要を紹介	大西雅也 高山優	
			第2節	武蔵国の設置	令制武蔵国の設置と関連する令制交通路、品川湊へとつながる古代東海道に触れる。新修港区史では触れられていない武蔵国府についても記述する		
			第3節	豊島郡と荏原郡	武蔵国の令制郡を解説する		
			第4節	式内蔭田神社	「延喜式神名帳」にも記載される蔭田神社に触れる		
	第3章	桜田・御田郷と飯倉御厨	第1節	桜田郷	港区区域に相当する和名類聚抄地名を検討。港区北部から千代田区南部・渋谷区東部にわたる地域と推測	小口雅史	
			第2節	御田郷	桜田郷と隣り合った旧地名		
			第3節	飯倉御厨	港区の飯倉にあったと考えられる御厨と呼ばれる副倉または補助倉		
	第4章	古代の港区域の景観	第1節	『万葉集』にみる古代の武蔵国	歌集のなかに見られる、当時の関東の大勢力であった武蔵国の様子を描写		
			第2節	『延喜式』にみる武蔵国の物産	律令の施行細則のなかに見られる、当時の関東の大勢力であった武蔵国の様子を描写		
			第3節	『更科日記』の竹芝物語	更科日記を書いたといわれる菅原孝標女が、港区域内のどこを通過したのかを中心に当時の港区域の景観を紹介		
	第5章	平安末の港区とその周辺	第1節	平将門の乱	南関東の武士、古代関東に発生した大きな騒乱と港区域のかかわりに触れる		
			第2節	『今昔物語』にみえる武蔵国と港区	説話集のなかで断片的に描かれる武蔵国や港区域の描写に触れる		
	中世編 鎌倉時代・ 室町時代・ 安土桃山時代	第1章	鎌倉時代	第1節	武蔵七党	南関東の武士団について、武蔵国を中心にして勢力を伸ばした武士団たちの動きから港区域の当時の状況を解説	漆原徹
				第2節	南関東の中世荘園	南関東にある荘園から、当時の生産状況や人々の暮らしを考察	
		第2章	室町時代	第1節	南北朝の動乱と南関東	鎌倉期から続く南北朝の騒乱は関東地区に大きな影響を与えている。当時の関東の状況を解説	
第2節				小田原北条氏と南関東	関東の戦国大名である小田原北条氏から関東の当時の状況を解説		
第3節				港区の城館跡について	白金長者の遺構など、港区域に残る遺構を紹介		
第3章		中世寺院	第1節	東国の真宗と阿佐布門徒	東国門徒の形成・阿佐布門徒とその展開・本願寺と善福寺。今に残る格式の高い寺社が多い港区での浄土真宗と区域とのかかわりをその形成から展開まで記述	永村真	
			第2節	浄土宗の展開と増上寺	法然とその門葉・東国の浄土宗・聖聡とその門流や日本でも有数の格式を持つ港区の寺、増上寺について記述		

「(仮称)新・港区史」構成

基本構成					執筆担当	監修者 全体監修者 井奥成彦	
編	章	節		執筆内容例示(項)			
近世編 江戸時代	序章	近世の港区域	第1節	近世のはじまりと江戸の成立	家康の入府を起点として	岩淵令治	
			第2節	身分別居住による分節的構造	武家地・寺社地・町人地の概要説明		
			第3節	中心部からの展開	各居住地から周辺部への展開の様子を概観		
			第4節	港区の地域ごとの特色	港区内各地域の特色を概観(切絵図に従った地域区分などを検討中)		
			第5節	港区の幕末	台場や公使館設置などをはじめとする港区特有の事象		
			第6節	近世遺跡の概要	近世都市遺跡「江戸」と「江戸遺跡」		高山優
	第1章	初期の都市開発	第1節	初期の都市開発	(江戸図によって開発過程をたどる)・武家地(土佐山内家の芝下屋敷)・寺社地(寺町の成立/移転)・町人地・古川(新堀)の開削	金行信輔	
			第2節	江戸のまちづくり	低地と海兵部の造成・高台の造成・遺跡にみる噴火・地震・火災・上下水道の整備とまちづくり・宝永の富士山噴火と火山灰	久保純子 斉藤進 高山優 宮崎勝美 岩淵令治 重田麻紀	
	第2章	武家	第1節	大名屋敷	長州藩・八戸藩・相州警衛と長州藩邸(コラム)	渋谷葉子	
			第2節	旗本・御家人屋敷	旗本・御家人とは・屋敷地の拝領と居屋敷・高坪・格坪(下屋敷の拝領)・屋敷の平面構成・屋敷内の空間と利用		
			第3節	愛宕下の旗本・武家人屋敷	芝口・愛宕下・西久保の区分と地理・芝口の旗本・御家人屋敷(交代寄合本堂家)・愛宕下の旗本・御家人屋敷・西久保の旗本・御家人屋敷・芝口・愛宕下・西久保の屋敷地所有者の変遷・芝口・愛宕下・西久保の屋敷地の実態と景観		
			第4節	赤坂の武家屋敷について	大名・旗本・御家人		滝口正哉
			第5節	発掘された武家屋敷と町屋	発掘された大名屋敷跡・発掘された旗本・御家人屋敷跡		斉藤進 高山優 合田恵美子
	第3章	寺社	第1節	寺院組織	幕府の宗教政策・寺院の建立・本末制度・寺檀制度・触頭制度・檀林と教学・寺院・僧侶の格式	上野大輔	
			第2節	寺院と檀家	大名菩提寺 金地院ほか	上野大輔	
			第3節	大寺院の空間構造と社会(増上寺)	通史(創建から幕末まで)・トピックスA.霊廟・トピックスB.石垣手伝普請・トピックスC.明治期への連続・歴史的建造物の所在と由緒、解説	伊坂道子	
			第4節	寺町の空間構造	寺町と現存建築 三田寺町ほか	中村琢巳	
			第5節	神社の社会的展開	赤坂氷川神社(別当大乘院)・麻布氷川・愛宕社・芝神明・修験・稲荷	滝口正哉	
			第6節	発掘された寺院跡	考古学でみる寺院境内と門前町屋・増上寺徳川将軍家霊廟の世界・名のある人びとの墓所・名もなき人びとの墓所・人骨でみる江戸の人びと	高山優 奈良貴史	
	第4章	町人・村落	第1節	町の構造	町の成立と幕府への役負担・町の財政・支配の仕組み	高山慶子	
			第2節	町屋敷の諸相	沽券図を読み解く・浪人・医師・大奥女中 一多様な地主一・町屋敷経営と裏店住民・門前町屋の構造・人別帳を読み解く	岩淵令治	
			第3節	商工業のにぎわい	地域に根ざした生業・豪商三井家の越後屋芝口店・職人・「表店の諸相-金杉河岸町屋敷絵図を読む-」(コラム)・盛り場の小営業・「勤番武士の消費生活」(コラム)・芝雑魚場と本芝・金杉漁師町	高山慶子	
			第4節	場末地域	村(在方)の様相	工藤航平 高山優 追川吉生	
			第5節	発掘された町屋	発掘された町屋跡・くらしの道具	高山優	
	第5章	文化	第1節	浮世絵を産む「場」としての芝界限	序論・和泉屋市兵衛、丸屋甚八、佐野屋喜兵衛などの活動・芝神明境内における浮世絵製作・芝界限を「場」とした浮世絵師と戯作者たちの人脈	大久保純一	
			第2節	年中行事	町人(大店 三井芝口店)ほか	滝口正哉	
			第3節	寺社参詣・願掛け・信仰・納札・花見	庶民の信仰		
			第4節	祭礼	赤坂氷川・麻布氷川・芝神明		
第5節			寺社の興行	開帳・富くじ			
第6節			盛り場の賑わい	盛り場の変化・発展・宮地芝居・寄席・岡場所・歌舞音曲・芸能			
第7節			絵馬・灯籠・天水桶・手水鉢	寺社への奉納物			
第8節			教育	寺子屋、藩邸の学問所、私塾	工藤航平 五十嵐和也		
第6章	幕末	第1節	幕末の外国公使館	修好通商条約の締結・江戸の外国公館の設置・外国人と庶民の交流・外国人襲撃事件・外国公館の警備・外国公使館跡地の発掘調査	吉崎雅規		
		第2節	品川台場と沿岸部の諸藩邸内台場	台場の概要・品川台場普請体制の構築・品川台場普請と地域社会・品川台場の警備・藩邸の利用変化・台場を見てみよう・発掘された内海御台場	富川武史		

「(仮称)新・港区史」構成

基本構成					執筆担当	監修者 全体監修者 井奥成彦
編	章	節	執筆内容例示(項)			
近代編 明治時代 ～ 港区誕生前	第1章	明治前期	第1節	土地利用(都市計画)	明治維新と武家地の転用・在外公館の設置・市街地と商工業	門松秀樹
			第2節	政治・行政	新政府による支配の開始・戸籍編成から区政へ・街の変容・通信-郵便、電信、電話	松沢裕作
			第3節	教育	学制以前・学制・教育令・帝国大学令、師範学校令、小学校令、中学校令・私学・幼児教育・社会教育	久保田哲 野村和 小山みずえ
			第4節	経済	手工業による消費財生産・殖産興業政策下における工業の展開・桑茶栽培、養蚕、種苗の展開・商店の動向・区内交通・鉄道開通	高柳友彦 (井奥成彦)
			第5節	公安、衛生、社会事業(消防関係)	衛生・社会事業・公安・消防	小島和貴 永田尚三
			第6節	宗教	大教宣布運動・キリスト教・新宗教	久保田哲 高田久実
			第7節	兵事	東京鎮台の設置・徴兵制度の開始・西南戦争への動員状況・陸軍大学校の設置・鎮台から師団へ	門松秀樹
	第2章	明治後期(1889～)	第1節	土地利用(都市計画)	市区改正事業の展開・商業地域と繁華街の発展・工業地域の形成・港区域における邸宅	福沢真一
			第2節	政治・行政	市制・町村制の施行・公民団体と区会、市会、府会・住民組織 - 衛生組合・氏子団体・通信-郵便、電信、電話	松沢裕作
			第3節	教育	教育勅語・小学校令、中学校令の改正、実業学校令、高等女学校令、専門学校令・社会教育	久保田哲 野村和 小山みずえ
			第4節	経済	商業地の形成・工場制工業の展開・市街電車など都市交通の開通・第一次産業(農業・畜産業・水産業)の展開・卸売市場の展開(各種、専門市場の成立)	高柳友彦 三科仁伸
			第5節	公安、衛生、社会事業(消防関係)	衛生・社会事業・公安・消防	小島和貴 永田尚三
			第6節	宗教	ユニテリアン教会、惟一館・キリスト教公認・日露戦争と宗教・新宗教	久保田哲 高田久実
			第7節	兵事	日清戦争への動員状況・日露戦争への動員状況	門松秀樹
	第3章	戦間期(大正・昭和)	第1節	土地利用	市街地の発展・(芝浦)工業地帯の発展・関東大震災と震災復興・人口の飽和と市街地・東京港の開港	高柳友彦
			第2節	政治・行政	政党政治下の区政・住民組織の発展・社会運動・通信-郵便、電信、電話	中村元 (松沢裕作)
			第3節	教育	臨時教育会議設置・大学令改正・高等学校令改正・社会教育・芝公園と教育機関・青年学校義務制	久保田哲 野村和 小山みずえ
			第4節	経済	商業地の展開・工業の進展・第一次産業(農業・畜産・水産業)・工業・商業の展開・第一産業関係・東京港の進展 自動車の普及	高柳友彦 (井奥成彦) 三科仁伸
			第5節	公安、衛生、社会事業(消防関係)	衛生・社会事業・公安・消防	小島和貴 永田尚三
			第6節	宗教	乃木夫妻の葬儀@青山斎場・新宗教・町会など・国民大法要大会@増上寺	久保田哲 高田久実
			第7節	兵事	(大正期の兵事)軍縮体制と徴兵・(昭和期の兵事)世界大恐慌・満州事変以降の兵事	門松秀樹
	第4章	戦時体制	第1節	土地利用	戦時体制と工業地帯・戦局の悪化と空襲	高柳友彦
			第2節	政治・行政	大政翼賛会と国民動員網の整備・東京都の成立と区政・通信-郵便、電信、電話	中村元 (松沢裕作)
			第3節	戦時の生活と区民	戦時の生活 ※末端の実態・建物疎開・空襲 ※個別事例の実態	都倉武之
			第4節	教育	国民学校令・中等学校令 ※勤労動員含む・社会教育・徴兵猶予の停止・学童疎開(柄越)・軍需工場の増加 下請工場の整備、工場労働者の増加	久保田哲 野村和 小山みずえ
			第5節	経済	軍需工場の増加 下請工場の整備、工場労働者の増加	高柳友彦
			第6節	公安、衛生、社会事業(消防関係)	衛生・社会事業・公安・消防	小島和貴 永田尚三
			第7節	宗教	宗教団体による戦時教育	久保田哲 高田久実
第8節			兵事	ノモンハン事件への動員状況・太平洋戦争への動員状況 ※復員は現代	門松秀樹	
第5章	文化と文化財	第1節	文化	旧芝区・旧麻布区・旧赤坂区・ラジオの普及	後藤新	
		第2節	文化財	史跡 文化財・現存する近代建築・発掘された近代遺跡	都倉武之	

「(仮称)新・港区史」構成

基本構成					執筆担当	監修者 全体監修者 井奥成彦
編	章	節		執筆内容例示(項)		
現代編 港区の誕生 ～ 港区政70周年	序章	戦後復興から 国際都市へのあゆみ	序節	概説	現代編全体の概説、戦後から現在までの港区を通覧	大山耕輔 石上泰州
			第1節	2つのオリンピックと港区	インフラ関連も含むオリンピックについての記述	松林秀樹
			第2節	港区の街の変化	「まちづくり」の視点で戦後から現在までの変貌を描く	中村仁 三田妃路佳
			第3節	国際都市、港区	再開発、国際交流の視点を含め、大使館や外資系企業の数、交通や外国人などの港区ならではの特徴、世界に開かれた国際都市・港区を描く	中村仁
			第4節	区民の暮らしの変化(座談会)	港区民の戦後から現在までの暮らしの諸相やインサイドストーリーを描く	未定
	第1章	港区の誕生	第1節	終戦と都制改革	35区の再編に至る経緯を記述。区政民主化運動、東京の自治権確立の動き、各区の人口分布の問題点、区域の狭域性などを記述する	新垣二郎
			第2節	東京都区域整理委員会の発足	東京都区域整理委員会のな動向、当時の都長官の権限と各区の(指揮命令系統)関係、さまざまな案から23区編成へと至る流れを具体的事項を見ながら記述する	
			第3節	各区の動向	23区編成に進む中であった地域のトラブルを記述。新修港区史では触れられなかった周辺区の動向や当時の港区内での区会議員などの動向に関する視点を追記	
			第4節	港区の発足	赤坂、麻布、芝の3区から統合後の名称決定、行政委員会の組織、行政機構の再編、統合記念事業などを記述。他の統合区との比較なども調査予定	
	第2章	人口と社会	第1節	戦後の人口変遷について	港区が発足する前後から現在までの人口と社会の変化を俯瞰する	検討中
			第2節	港区の人口	港区の人口の変化を、世帯数、年齢別、密度、外国人人口などを踏まえ解説。港区内の地区ごとの違いも記述する	
			第3節	人口動態から見る港区の社会	港区の転入・転出人口、昼夜間別人口の変化などを見ながら、時々の港区の社会変化を記述する	
			第4節	人口と計画行政	昭和53年に港区基本計画施行後の計画と人口の変化、今後の港区人口などを記述する	
	第3章	議会と行政	第1節	復興から高度経済成長下の港区(1945年～1974年)	選挙結果、議会の主要人事・案件、行政機構の主要な変化、港区議会の発足、復興と生活安定、インフラ整備、自治権拡充問題	石上泰州 名取良太
			第2節	区長公選と安定成長下の港区(1975年～1996年)	選挙結果、議会の主要人事・案件、行政機構の主要な変化、基本計画の重要課題、区長公選制、新庁舎建設問題、都区制度改革	
			第3節	人口増時代の港区(1997年～2020年)	選挙結果、議会の主要人事・案件、行政機構の主要な変化、基本計画の重要課題、人口増への対応、支所機能の充実、行政事務の効率化・情報化	
	第4章	税財政	第1節	終戦から高度成長前夜まで	歳出、歳入、都区財政調整という税財政に関する流れのなかで、終戦後から高度経済成長前夜への変化を記述する	佐藤公俊 天羽正継 箕輪允智
			第2節	高度成長期	歳出、歳入、都区財政調整という税財政に関する流れのなかで、高度経済成長といわれる時代を記述する	
			第3節	高度成長の終焉から安定成長期まで	歳出、歳入、都区財政調整という税財政に関する流れのなかで、高度経済成長といわれる時代を記述する	
			第4節	バブル経済からその崩壊まで	歳出、歳入、都区財政調整という税財政に関する流れのなかで、バブル期の変化を記述する	
			第5節	デフレ経済期から現在まで	歳出、歳入、都区財政調整という税財政に関する流れのなかで、デフレ期から現在に至る変化を記述する	
	第5章	環境	第1節	生活環境	公害問題から環境問題へ・環境基本条例の制定・環境と共生した街づくり	白川展之 小田勇樹
			第2節	大気・エネルギー	地球温暖化問題・エネルギー問題・低炭素・省エネルギー社会へ	
			第3節	緑化・生物	自然環境・緑化・水資源・生物多様性の保全	
	第6章	防災と生活安全	第1節	港区と生活安全(警察・治安行政)仮	昭和20年代、30～40年代、50年代から昭和末、平成期と時代を区切り、警察法施行・警察制度再編などの警察関連の動きを記述予定	永田尚三 福沢真一
第2節			消防・消防団	消防庁や消防団発足の経緯や新たに消防の業務となった救急について記述。国営消防から自治体消防へ、警視庁消防部から東京消防庁へ、勅令消防団から政令消防団へ、港区域内の消防、救急、港区域内の消防・救急事案、港区域内の現在の消防・救急など		
第3節			震災関連	戦後直後から現在までの災害と防災対策について記述。戦後直後の災害と災害対応、高度成長期の災害と災害対応、災害対策基本法の制定と港区の防災行政、大規模自然災害時代の港区の防災行政、港区域内の現在の防災体制など		
第7章	産業と労働	第1節	東京の経済とその概括的特徴	東京圏の経済集中・東京圏の中核管理機能の集積	三田妃路佳 中村仁	
		第2節	港区の一般的経済の動き	港区の戦後社会経済の動き・港区の工業の動き・港区の商業の動き・港区の水産業の動き・港区と東京港の役割		
		第3節	港区の産業と流通(現況)	港区の工業の推移と現況・港区の商業の推移と現況・港区の水産業の推移と現況・芝浦食肉市場の推移と現況・区民の消費生活と消費者行政・港区の交通機関・港区の郵便の概況・港区の電報・電話の概況・港区のラジオ・テレビの概況		
		第4節	港区の中小企業と行政の対応	港区の中小企業・港区の小売、飲食、サービス業・港区の卸売業・港区工業の生成・発展と現状・港区の中小企業対策(行政の対応)・港区の観光		
		第5節	港区の産業と開発	港区の民間企業の歴史等		

「(仮称)新・港区史」構成

基本構成					執筆担当	監修者 全体監修者 井奥成彦
編	章	節	執筆内容例示(項)			
現代編 港区の誕生 ～ 港区政70周年	第8章	教育と文化	第1節	学校教育	戦後の教育改革・高度経済成長と港区教育・教育の混乱と「ゆとり」路線・区教育行政の現状と課題	進邦徹夫 村上祐介
			第2節	社会教育	概説・成人教育・青少年教育・視聴覚教育・文化活動・社会体育・図書館	
			第3節	外国語学校教育	インターナショナルスクール等の外国語学校教育	中村仁
			第4節	文化施設	森美術館、博物館等の文化施設について	
	第9章	福祉	第1節	戦後混乱期の概況	要援護者(市民一般・戦災孤児・傷痍軍人・遺族・引揚者)、困窮状況(物価・雇用・栄養・住居)などを書き時代ごとに記述予定	西田恵子
			第2節	戦後復興期(福祉三法の整備)※凡そ1952年まで	低所得者の福祉、子どもの福祉、障害者の福祉、民間社会事業者、社会福祉法人、社会福祉協議会、共同募金、民生委員児童委員、保護司、国民健康保険など記述予定	
			第3節	高度経済成長期(福祉六法の整備)※凡そ1975年まで	低所得者の福祉、子どもの福祉、母子、女性の福祉、障害者の福祉、高齢者の福祉、医療社会事業、社会福祉施設の展開、福祉教育、ボランティアなど記述予定	
			第4節	高齢化社会(福祉の普遍化)※凡そ2000年まで	低所得者の福祉、子どもの福祉、母子、女性の福祉、障害者の福祉(国際障害者年)、高齢者の福祉(寝たきり老人、認知症老人)、地域福祉、在宅福祉サービスの展開、福祉計画、中国残留邦人の福祉など記述予定	
			第5節	高齢社会、少子社会(福祉の市場化)※2001年以降	低所得者の福祉、子どもの福祉、ひとり親家庭の福祉、疾病・障害者の福祉、高齢者の福祉(介護保険)、在住外国人の福祉、孤立化の進行、地域包括ケアシステム、福祉機器・住宅改修、災害への対応、権利擁護、地域福祉計画。地域福祉活動計画、福祉情報化、福祉人材、企業の社会貢献など記述予定	
	第10章	衛生	第1節	生活衛生	害虫問題、住宅問題、飲料水管理、食中毒予防、飲食店取り締まりなどに関して記述	小島和貴
			第2節	保健予防	感染症予防、予防接種、健康教育に関して記述	
			第3節	健康推進	栄養相談、健康づくり推進事業、地域保健(母子保健、歯科保健など)、健康増進センター、スポーツ施設に関して記述	
			第4節	労働衛生	職業に基づいた疾病予防、メンタルヘルスへの対応、快適職場の普及・啓発事業、ワークライフバランス推進事業に関して記述	
			第5節	水道・下水道事業	水道敷設・管理と都との連携、下水道敷設・管理と都との連携に関して記述	
	第11章	町域の歴史	第1節	町内会・自治会の再出発	現代に続く町内会システムのもとともなっている戦時体制時の町内会・自治会からポツダム勅令の有効期間内における町内会の実質的な存続状況、失効後の復活状況など記述	新垣二郎
第2節			区内町内会・自治会の実相	町会の加入世帯数の推移、住居表示事業に伴う町内会統合の状況や町会活動内容などに触れる		
第3節			港区行政との関わり	町内会への補助金等の拠出状況や、町内会(会長)にどのような役割分担があったか、また、公認団体化運動との関わり、住居表示事業での軋轢など記述		